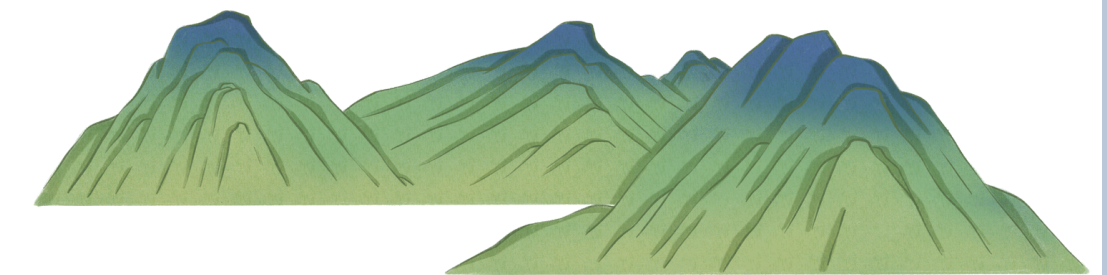




梼原町の子どもたちの 学力向上に向けて

～多層指導モデルMIMを活用した取組～

2026.5.26



梼原町教育委員会 一貫教育支援センター 原 由香

目次

01 MIM概要

02 MIM導入の目的と背景

03 梶原町でのMIMの実践

04 取組と成果

05 高知県内でのMIMの取組

06 まとめ

01 多層指導モデルMIMの概要

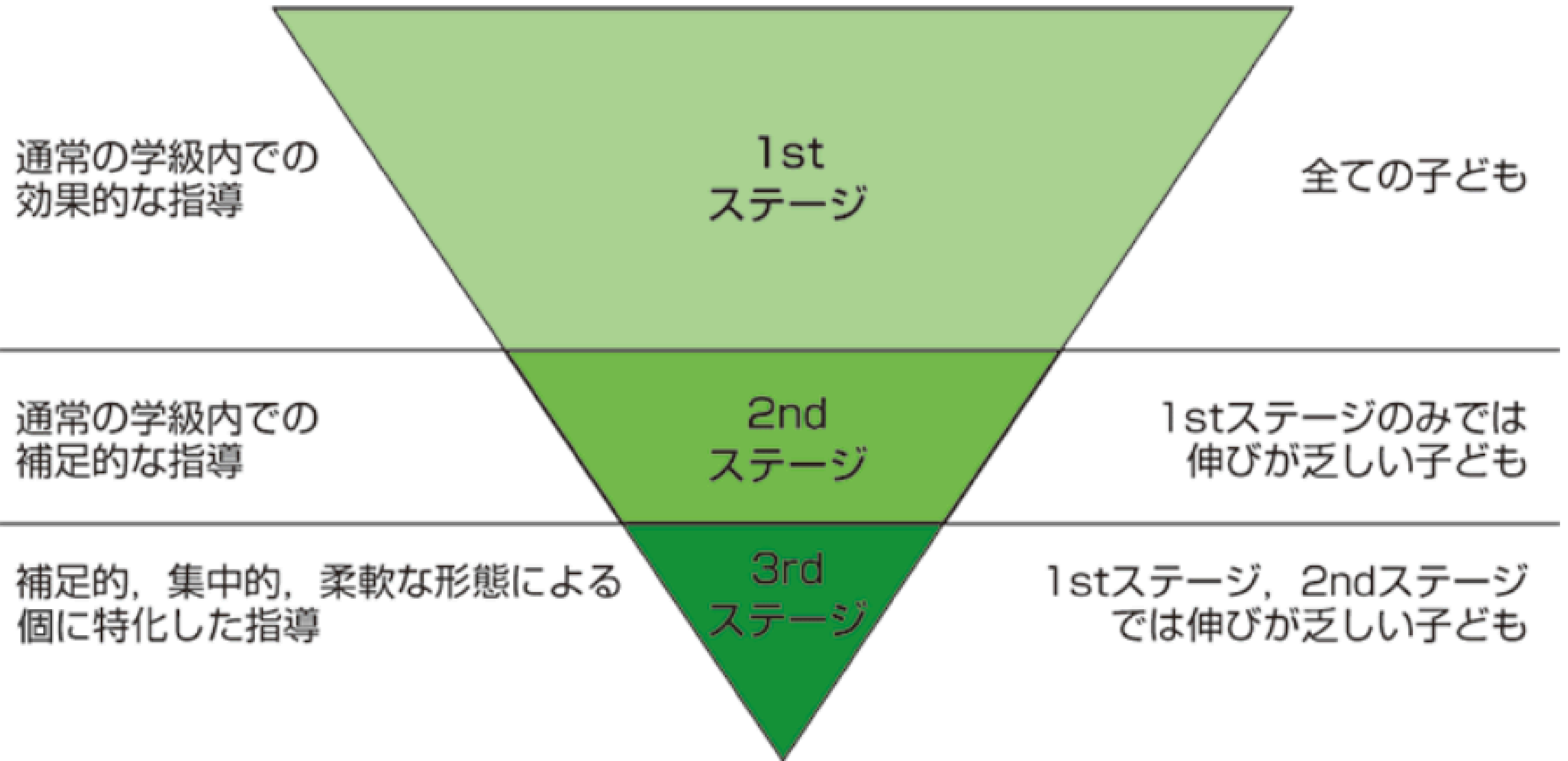
多層指導モデル (MIM)

(Multilayer Instruction Modelの略)

MIM (ミム) とは、学校の授業において、子どもたちが勉強でつまづいて自信を失ってしまう前に、「早期に発見して、それぞれに合ったサポートをする」ための仕組みのことです。

これまでの教育は「ついていけない子がいたら、後からフォローする」ことが一般的でした。MIMは「最初から全員が分かるような授業をしつつ、困っている子を早く見つけて、すぐに手厚く助ける」という、予防を重視した教育モデルです。

MIM実践の説明



著作権により非公表

著作権により非公表

02

MIM導入の目的と背景

- **「読み」はすべての学習の土台である（学力の向上につなげる）**
- **つまずきが深刻化・重篤化する前の早期支援（RTIの考え方）**
- **特殊音節（促音・長音・拗音）におけるつまずきの解消**
- **通常の学級で実践可能なユニバーサルデザインの視点**

小学校のひらがなの習得の期間はそんなに多いわけでは無く入学して3か月ほどしたところに特殊音節等も習う。もちろん、折に触れて繰り返し学習するが特殊音節そのものを教える学習ではなくなる。ゆっくり学ぶタイプの子どもはここで分からなくなってしまうことがある。

梶原町でのMIMと学力との関連性

(目指す子どもの姿)

MIMは子どもたちの今後の学びの土台づくり

- ・ MIM-PMと学力調査での相関はこれからだが、MIM-PMの結果を踏まえた学習指導を継続

- ・ 読みの流暢性・語彙の拡大を目指し、MIMを活用した指導の推進

- ・ 低学年のうちに読みを確実に習得させることをめざす。
- ・ 読むことに抵抗がなくなり、読解力を身につける
- ・ 教科書や文章、板書を読む力が身につく、学習活動全般に好影響

学びの土台である読みを育む

03

令和7年度MIM実践について

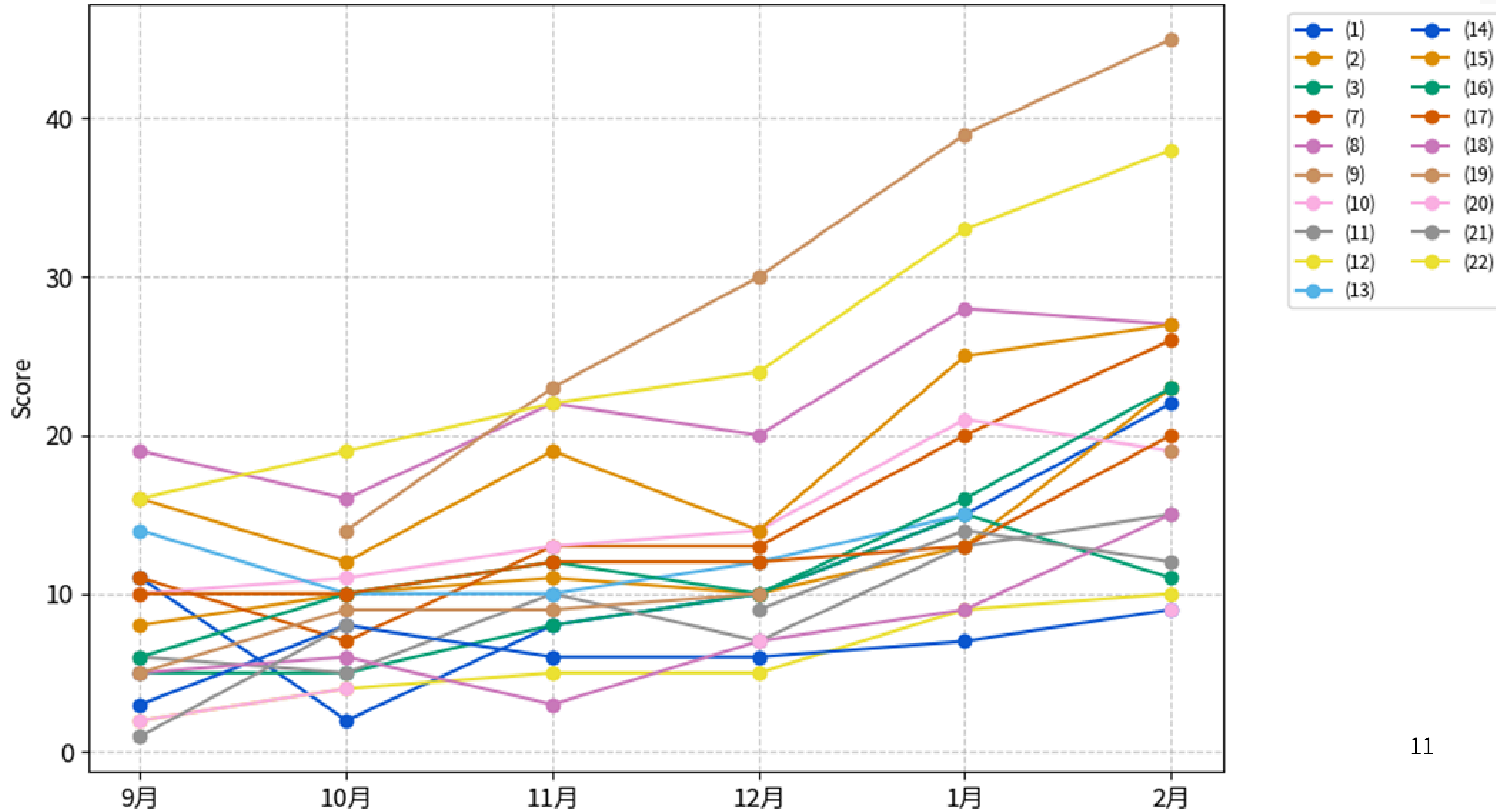


- **対象：小学1年生（9月から開始）**
小学2年生（5月から開始）
- **アセスメント：MIM-PMを定期実施（月に1回）**
- **内容：テスト①「絵に合うことば探し」、テスト②「3つのことば探し」**
- **各1分間という短時間で、正確さとスピードを測定**
- **アセスメント後に「読み名人」のことばあそびの時間をとる**
- **必要な子どもに個別（小集団）指導**

03 指導のポイント

- 毎月第3週が栲原学園の低学年のMIM週間（宿題、隙間時間や学習前のミニテスト等にMIMのプリントに取り組む
- 支援が必要な児童には、月に数回の個別の支援を行う
- 目指すのは、読みの流暢性を育むための早期把握・早期支援
読みが苦手な子どもの発見、読みのどこが苦手か？を早く見つける 音と文字の一致？知識としての文字を知る？
処理速度をあげる？
そこを早くに見つけて支援につなげることが読みの
流暢性を高めて、読むことが好きな子どもに！

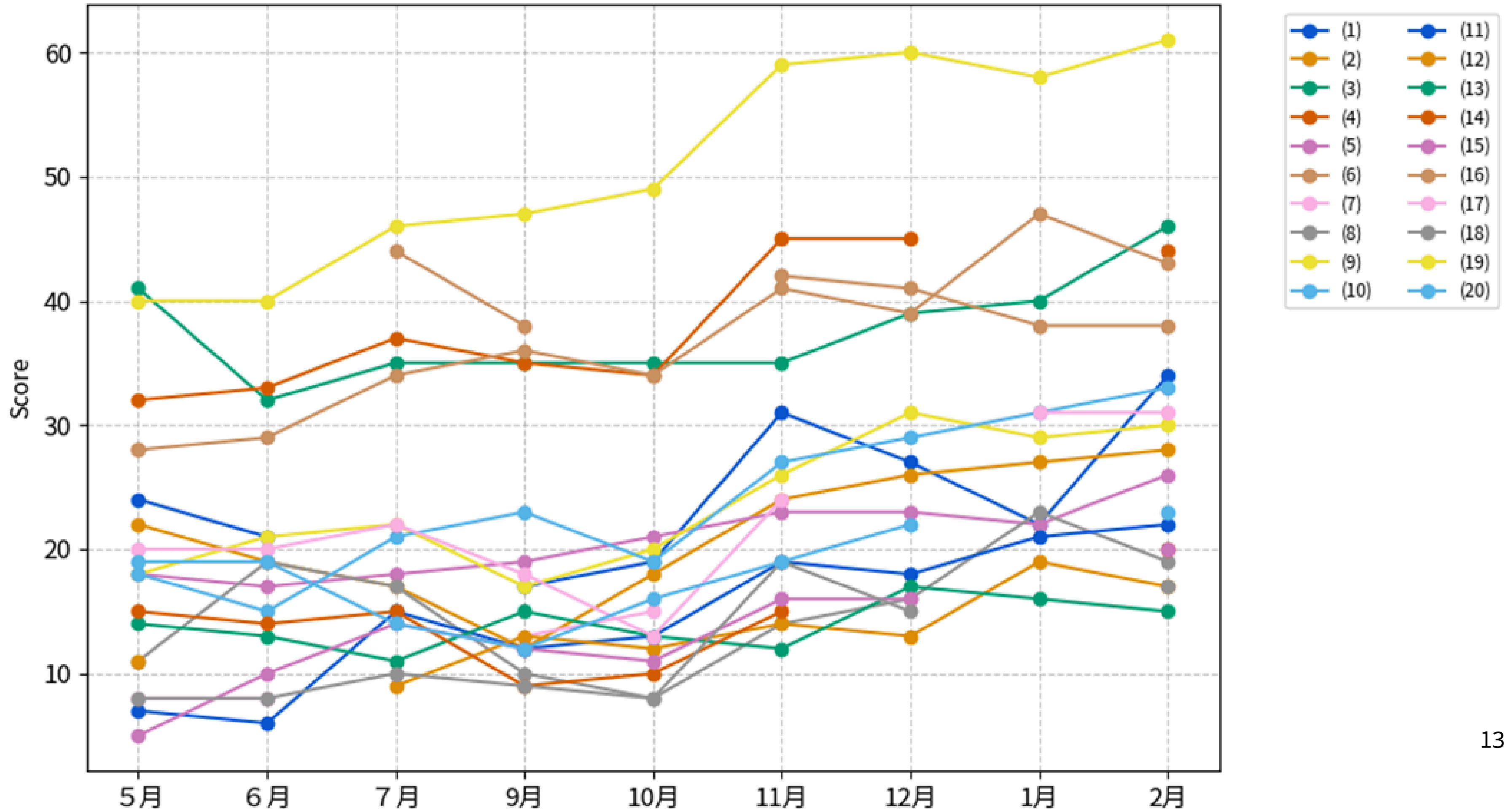
1年生月別グラフ



1年生の分析について

- アセスメントは1年生は9月から3月の7か月間（グラフは2月まで）
- はじめから1stステージの子どもはずっと1st
- 3rdの子どもも1stの子どももみんな伸びている
- 文字から意味のある言葉を処理するプリントの問題が難しい
- 1年生は、急いで問題に取り組むことが難しい
- できると楽しいという発言が多くなり意欲につながる
- のんびりやさんは、点数が取りにくい 練習する
- 速く問題を解く意識をつける
- 練習によって伸びることによって読むことへの自信がつく

2年生月別グラフ



2年生の分析について

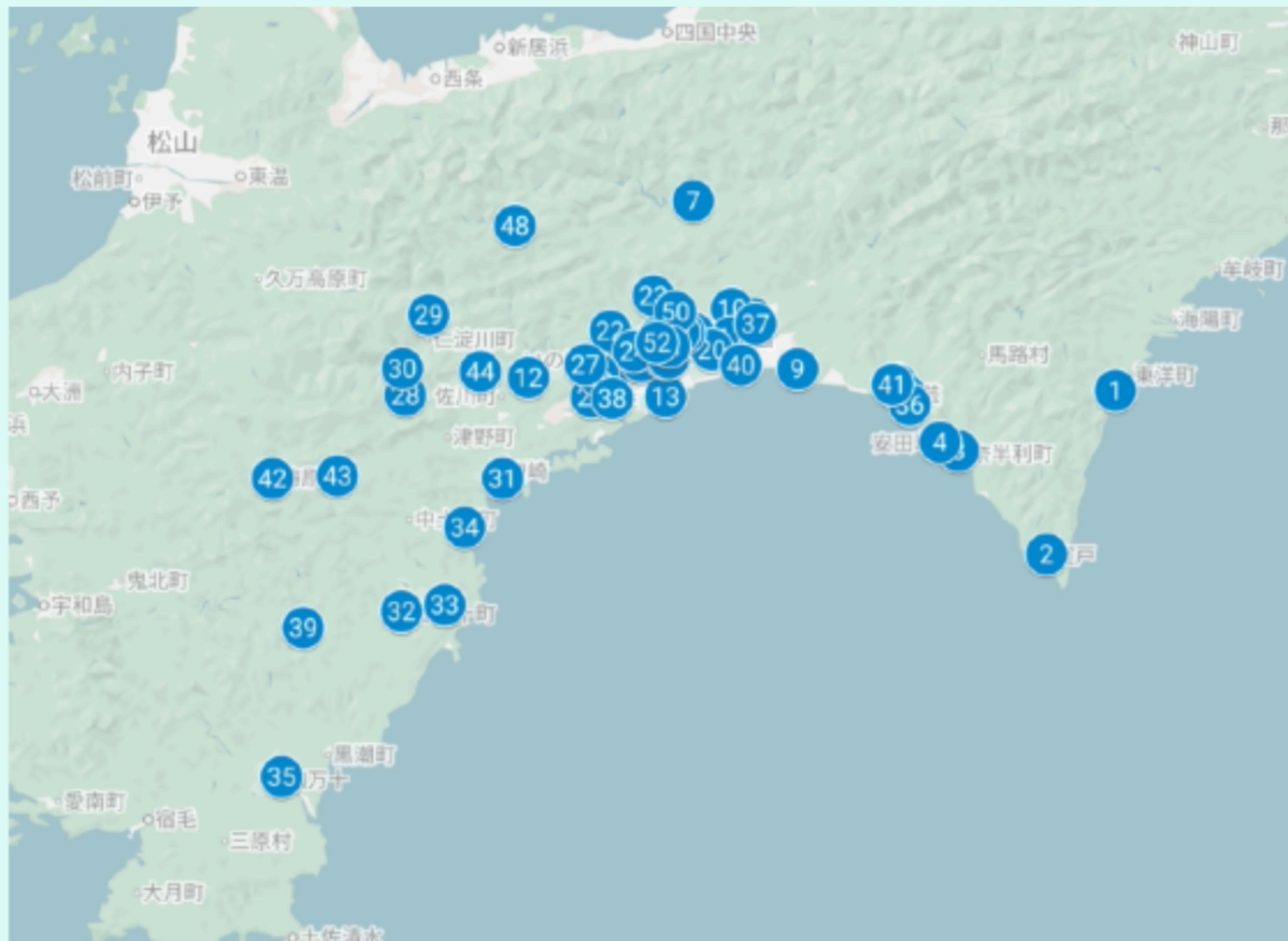
- アセスメントは2年生は5月から3月の11か月間
- 読むことの意識が高くなると語彙が増えて自信になる
- 3rdの子どもも1stの子どももみんな伸びているが、あまり点数に変化のない子どももいる（学習課題がある）
- 集中の課題か？認知の課題か？見極めが大切
- 前回の自分との比較ができるようになった（点数の意識）
- のんびりやさんは、点数が取れない。急ぐ練習。
- 練習によって伸びている文字に対する自信がつく

04 成果と展望

- 2nd/3rdステージの充実：休み時間の個別・小グループ指導の継続
- 個別の指導の教材の共有：
 - みんなが使える教材と迅速なデータ分析の共有
- 家庭との連携：自宅でもひとりでできる宿題の出し方、MIMの理解
- 他学年との理念共有：UD（ユニバーサルデザイン）の視点
- 担任がすべて行うのは時間的にも難しい場合もある(支援員活用)
- 朝や授業時の隙間時間の活用
- 梶原町で継続的なMIMの取り組みにむけて学校現場との共有
- 学力向上のために読む力をつけていくことは必要

高知のMIMの実践状況

これまで訪問・研修を行った学校・研究会 と 本年度も取組みが行われている学校
研修を行った学校



高知大学松本教授から

高知のMIMの実践状況

これまで訪問・研修を行った学校・研究会

と本年度も取組みが行われている学校
研修を行った学校

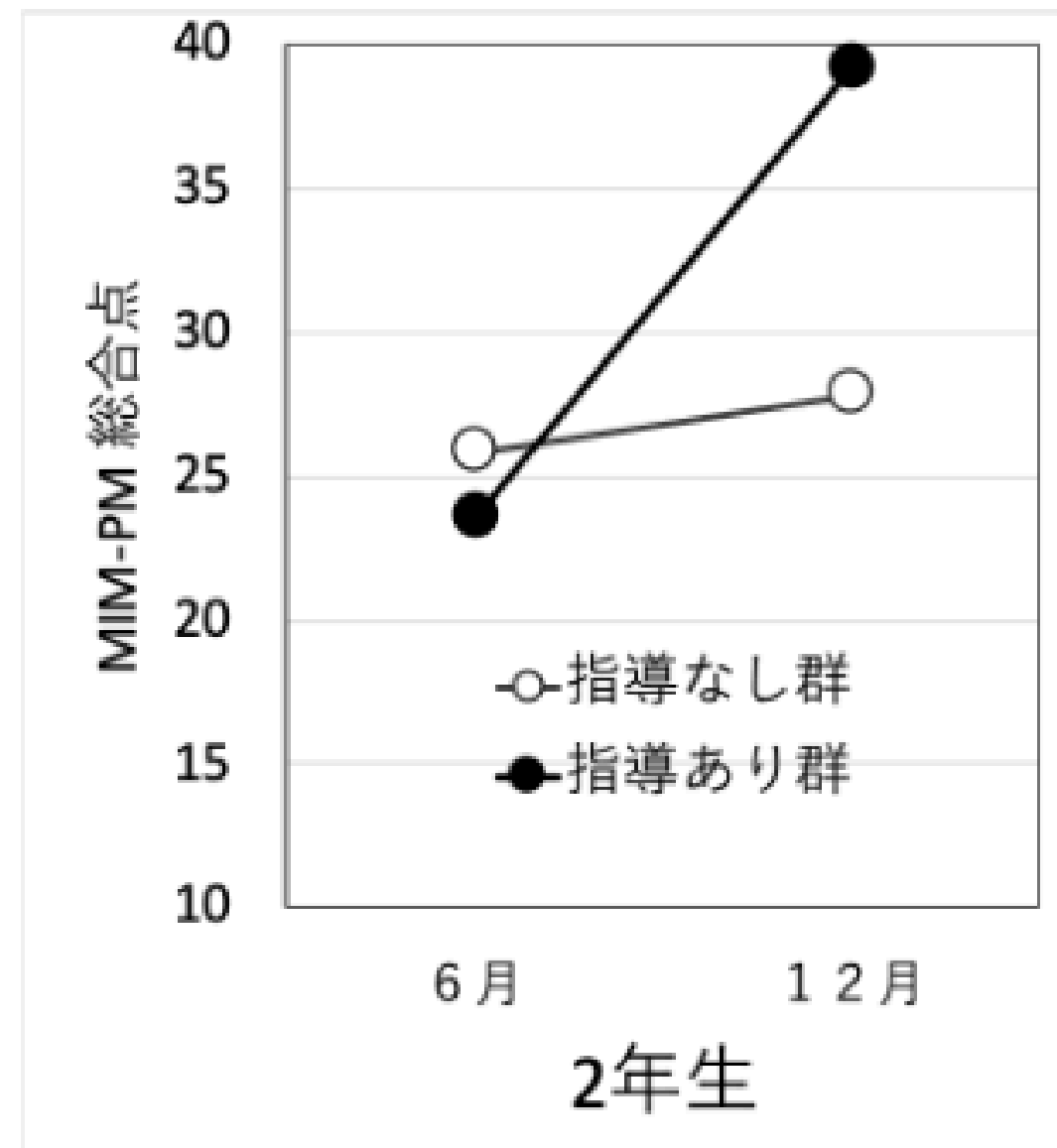


高知大学松本教授から

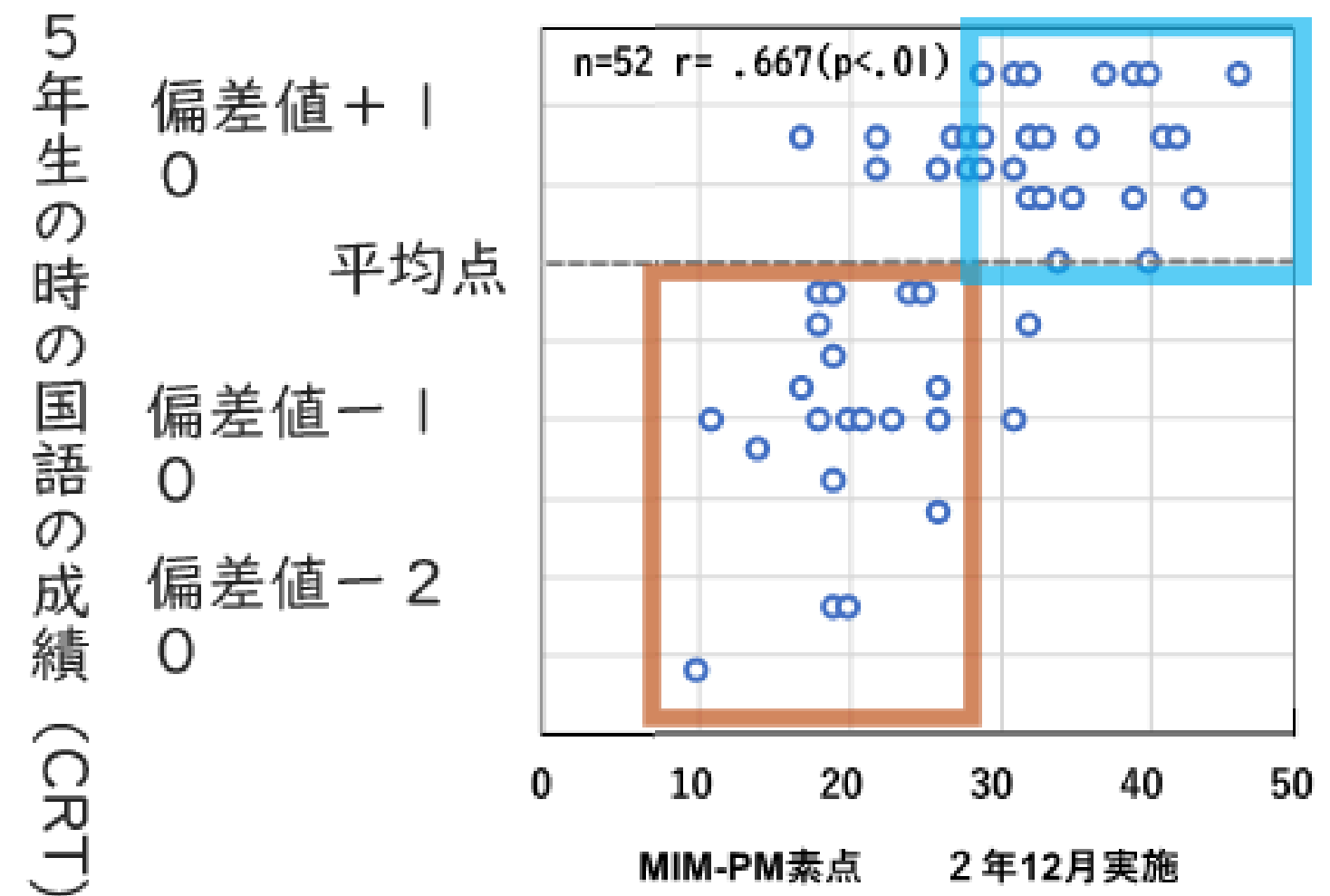
どう活用すればよいかという点について

MIM指導あり群となし群の比較

小学校2年時のMIM-PMと5年時の国語の成績の関連



松本秀彦(2026):小学校2年生時のひらがな読みの流暢性と中学年・高学年での国語学力との関連性. 高知大学学校教育研究, 5, 191-197



松本・名倉 LD学会ポスター発表(2020)

05 全国におけるMIMの取組

横浜市は、教育振興基本計画（2026～2029年度）に基づき、市立すべての小学校において多層指導モデル「MIM（ミム）」を実践する方針を打ち出しています。

- これまで一部の推進校などで個別に行われていた取り組みを、全校展開へと拡大しています。
- 計画の根拠: 2026年3月に策定された「第5期横浜市教育振興基本計画」の施策において、全ての小学校での実践が明記されました。
- 目的: 児童一人ひとりのつまづきを低学年の早い段階で把握し、効果的な指導・支援につなげることで「学習の困難さ」を予防します。

05 全国におけるMIMの取組

栃木県鹿沼市は、全国の自治体の中でもきわめて早い段階（2015年度）から市内の全小学校でMIM（多層指導モデル）を本格導入している、全国屈指の「MIM先進地域」です。

- 導入初期からICT機器の活用を進めており、現在は児童がタブレット端末を使って「読み」の練習や進捗チェックのアセスメント（検査）を主体的に行える環境が整っています。
- MIMの開発者である海津亜希子教授（明治学院大学）を講師に招いた校内研修や、定期テストデータの分析・フィードバックなどを長年続けており、指導の質を高く保っています。

06 まとめ

- MIMは「誰一人取り残さない」教育の土台
- 「読み」の力が自信と意欲に繋がる（学力の向上）
（読むことは、すべての学習の基礎力）
- 学校と梶原町教育委員会の連携による、
支援体制を継続していく
- 「読むことが楽しい」梶原の子どもを目指して
読みの苦手感のある子どもの底上げを行う



THANK YOU

梶原町の子どもたちが笑顔で読むことを楽しめるようになることが、学力向上につながると考えています。

梶原町一貫教育支援センター